

[020] 文獻探究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/10129>

出版情報：文獻探究. 20, 1987-09-26. 文獻探究の会
バージョン：
権利関係：

既刊号分類総目録

中古

- 『とりかへばや物語』四の君密通事件・続攷 (四) 辛島 正雄
- 研究余滴 引歌と成立年代 (五) 辛島 正雄
- 『べらなり』の和歌 ー古今後撰時代の場と表現ー (六) 工藤 重矩
- 『くれたけのよなかきをきりて』考 (七) 佐藤恵美子
- 九州大学附属図書館蔵『伊勢物語聞書』について (四) 田坂 憲二
- 九州大学文学部蔵『伊勢物語能愛抄』について (六) 田坂 憲二
- 九大本『源氏大鏡』について ー付、『源氏大鏡』三類本文と校異(序・桐壺)ー (五) 田坂 憲二
- 『源氏大鏡』三類本文と校異(二)帚木一夕願 (六) 田坂 憲二
- 『源氏大鏡』三類本文と校異(三)若紫一花宴 (七) 田坂 憲二
- 九州大学附属図書館蔵『伊勢物語聞書』について (四) 中條 順子

中世

- 『風に紅葉』物語覚書(一) (八) 辛島 正雄
- 『風に紅葉』物語覚書(二) (九) 辛島 正雄
- 『風に紅葉』物語の完結性について ー覚書(三)ー (十) 辛島 正雄

- 『兵部卿物語』の成立をめぐる (十三) 辛島 正雄
- 『兵部卿物語』の成立をめぐるて・補正 ー宮田和一郎氏の『兵部卿物語』校注ー (五) 辛島 正雄

- 中世擬古物語研究への一視点 ー『浅茅が露』『増鏡』所見の類話のことなどー (七) 辛島 正雄

- 中世物語史私注 ー『木幡の時雨』『源氏小鏡』をめぐるてー (十三) 辛島 正雄

- 『忍音物語』の「尼君」をめぐるて (十三) 後藤 康文

- 『狭衣物語』作中歌と中世和歌 (六) 後藤 康文
- 『新撰六帖題和歌』初句索引 (三) 田坂 憲二

近世

- 『阿刈殿』上篇と宗武・宇万伎の「仮字問答」 (五) 飯倉 洋一
- 研究余滴 宇万伎の古道論 (六) 飯倉 洋一

- 翻刻『大宰府紀行』 (十三) 板坂 耀子
- 秋成の一首・成美の一句 ーその筆蹟と解説ー (九) 市場直次郎

- 九大図書館蔵『寛文五 乙巳記』 ー翻刻と解説ー (五) 井上 敏幸

- 『如法寺殿道之記』 ー解題と翻刻ー (六) 井上 敏幸

- 『去来抄』と異本『落柿舎遺稿』 ー非書管見(一)ー (九) 大内 初夫

- 『けふの昔』と『正風誹談録』 ー非書管見(二)・付翻刻『正風誹談録』ー (十二) 大内 初夫

式亭三馬の趣向

(六) 大内 保宏

九州大学
蔵野文庫

『成島信通集』—翻刻と解題—

(十三) 久保田啓一

三つの『三世のなみ』—成島信通家集の成立—

(十五) 久保田啓一

中島広足往来抄(一)

(二) 白石 良夫

中島広足往来抄(二)

(四) 白石 良夫

中島広足往来抄(三)

(五) 白石 良夫

中島広足往来抄(四)

(六) 白石 良夫

中島広足往来抄(五)

(七) 白石 良夫

中島広足往来抄(六)

(八) 白石 良夫

中島広足往来抄(七)

(九) 白石 良夫

中島広足『倭歌諸説』翻刻

(五) 園田 豊

『金々先生
後自筆』不物好持たが病—翻刻と解題—

研究餘滴 宇都宮士龍と『延年集』

(三) 高橋 昌彦

怪異本『宿直座頭』報告

(五) 花田富二夫

細井広沢の竹枝

(七) 宮崎 修多

前号補訂、地獄極楽竹枝、及び竹内雲濤の詩話のことなど

(六) 宮崎 修多

唐船持渡りの書籍と文具 その一

(四) 若木 太一

唐船持渡りの書籍と文具 その二

(五) 若木 太一

唐船持渡りの書籍と文具 その三

(六) 若木 太一

唐船持渡りの書籍と文具 その四

(七) 若木 太一

唐船持渡りの書籍と文具 その五

(八) 若木 太一

近代

藤村の逸文

(一) 瓜生 清

『詩の青春』—朔太郎と犀星の交流—萩原朔太郎年譜考(一)

(七) 國生 雅子

出発の頃 —萩原朔太郎年譜考(二)—

(十二) 國生 雅子

『月に吠える』刊行前後 —萩原朔太郎年譜考(三)—

(十七) 國生 雅子

『袈裟と盛遠』論 —人物造型への一考察—

(六) 下野 孝文

中原中也詩における幼児の表象 —「春と赤ん坊」を中心にして—

(十四) 中原 豊

『定本坂口安吾全集』(冬樹社)未収録資料

(一) 花田 俊典

評伝 矢田津世子(一)

(一) 花田 俊典

評伝 矢田津世子(二)

(二) 花田 俊典

評伝 矢田津世子(三)

(五) 花田 俊典

評伝 矢田津世子(四)

(六) 花田 俊典

資料 坂口安吾「意欲的創作文章の形式と方法」

(七) 花田 俊典

—『定本坂口安吾全集』未収録資料—

(八) 花田 俊典

評伝 矢田津世子(五)

(八) 花田 俊典

〔新資料〕坂口安吾他・座談会「世相放談」

(十四) 花田 俊典

—『定本坂口安吾全集』未収録資料—

(十七) 松本 常彦

芥川龍之介「青年と死と」の一側面

(十七) 松本 常彦

太宰治と自意識の時代 —「ドストエフスキイ論」をめぐる—

(六) 山崎 正純

小林秀雄論ノート(一) —ヴァレリーの知性の呪縛—

(十九) 山崎 正純

小林秀雄論ノート(2) —文学の科学性について—

(三十一) 山崎 正純

国語学

古文書による国語史研究序説 ―『豊太閤眞蹟集』について―

(十三) 安部 美絵

「シウ」・「シユ」・「シユウ」

(十六) 江口 泰生

〈研究余滴〉佐賀方言の「動作進行態」と「状態継続態」

(十九) 江口 泰生

東国文献としての「天正狂言本」―動詞の音便形について―

(二十) 江口 泰生

元禄期における字音M尾N尾の発見 ―中村楊斎の『韻学私言』―

(二十一) 岡島 昭浩

元禄期の字音仮名遣いの一例

(二十二) 岡島 昭浩

―中根元圭序『筌蹄集』のワ行仮名と唇内韻尾―

(二十三) 秋吉 望

日本靈異記下巻序の訓読

(二十四) 坂口 至

宣命の呼称 ―続日本紀から三代実録まで―

(二十五) 小野 望

東海道中膝栗毛の方言描写

(二十六) 小野 望

「物類称呼」の地名表示について

(二十七) 小野 望

「日葡辞書」の連濁について

(二十八) 木部 暢子

言語地区の一解釈 ―「捨てる」の九州方言―

(二十九) 木部 暢子

豊前方言アクセント ―二拍2類名詞―

(三十) 木部 暢子

連接する助詞のアクセントについて

(三十一) 木部 暢子

用言の活用形とアクセント

(三十二) 木部 暢子

アスペクト研究方法試論

(三十三) 木部 暢子

「大蔵流狂言秘本」のことばの性格

(三十四) 坂口 至

助動詞ヨウの成立以前

(三十五) 坂口 至

浄瑠璃詞章の一考察

(三十六) 坂口 至

虎明の表記意識

(三十七) 坂口 至

漂流民ゴンザのアクセント(上) (十三) 坂口 至

漂流民ゴンザのアクセント(下) (十四) 坂口 至

ゴンザ「新スラブ・日本語辞典」のアクセント(六) 坂口 至

紀海音の用語意識―韻律の観点から―(上) (六) 坂口 至

紀海音の用語意識―韻律の観点から―(下) (九) 坂口 至

延岡市島野浦島の二拍名詞アクセント (二十) 坂口 至

近世末期の文献と方言史研究 (二十一) 崎村 弘文

「日本靈異記」の序・再考 (二十二) 崎村 弘文

資料紹介 古今和歌集聞書 (二十三) 崎村 弘文

九州大学蔵「延五秘抄」一本について(一) (五) 崎村 弘文

九州大学蔵「延五秘抄」一本について(二) (六) 崎村 弘文

九州大学蔵「延五秘抄」一本について(三) (八) 崎村 弘文

御伽草子の表記体系(一) (九) 崎村 弘文

本館大学蔵「古今和歌集古聞」について (十) 崎村 弘文

東大蔵「宗祇假名遣」について (十一) 崎村 弘文

古辞書と仮名遣い―近世の節用集の場合― (十二) 崎村 弘文

沖繩今帰仁方言のアクセント体系 (十四) 崎村 弘文

ゴンザのアクセント・私考 (十五) 崎村 弘文

ゴンザのアクセント・私考 続 (十七) 崎村 弘文

連声小考 (十八) 崎村 弘文

韻律論のために (十九) 崎村 弘文

薩摩藩の有職学―玉里文庫研究― (二十) 崎村 弘文

宍岐のアクセント (二十一) 添田建治郎

古本説話集の文章―宇治拾遺物語との比較を通して― (二十二) 高橋 敬一

「注好選」研究一試論

―東寺本中・下巻重出説話七話を手がかりにして―

(十五) 高橋 敬一

『徒然草』の漢語とその訓み(一)―細川幸隆本を資料として―

(十三) 高橋 敬一

書紀歌謡音仮名と原音声調

書紀歌謡二音節名詞の表記について

(十一) 高山 倫明

―アクセント語類との関連をめぐって―

(十二) 高山 倫明

『東洋客遊略』の音訳漢字表記について

(九) 蔡 京希

韓国語動詞分類試論

(九) 權 奇洙

日中兩國における指示詞の研究

―(ヘコ・ソ)系と(ヘ遠・那)系の対照を中心として―

中国語動詞の分類試論

(七) 張 瓊玲

九州大学蔵『平語』について

(六) 張 瓊玲

漢字専用文献としての前田家本三宝絵詞研究試論

(十二) 中村 萬里

浄瑠璃丸本における表記をめぐって

(六) 橋田 良照

―平仮名字体について―

(十二) 野口 義廣

蒙求抄の二部構造

(十四) 古田 雅憲

筑後久留米の山崎闇齋学派問書資料について

(十三) 望月 正道

戯作の唐音かな表記

(十二) 矢野 準

黄表紙に於ける漢字―黄表紙十一種の使用漢字一覧―

(十) 矢野 準

活用型の変化からみた上方絵入狂言本

―サ行下二段活用の四段化の場合―

活用型の変化からみた上方絵入狂言本

―ラ行下二段活用の四段化の場合―

「目から鼻へ抜ける」話

雑

資料と私

今井源衛教授所蔵フィルム目録(抄)

文庫訪問の心得(一)

文庫訪問の心得(二)

文庫訪問の心得(三)

文庫訪問の心得(四)

文庫訪問の心得(五)―カメラの使用について―

文庫訪問の心得(六)

研究室のあれこれの事(一)

研究室のあれこれの事(二)

今井源衛先生著『国文学やぶにらみ』に寄せて(十)

紹介 今井源衛 他編著『古筆手鑑 芦屋釜』

研究室を後に

〈コラム〉寸懐(一)

御尋ねに。

国宝古筆手鑑

〔大正〕「昭和」

〔昭和〕「昭和」

(十) 山県 浩

(十一) 山県 浩

(十三) 吉田 達

(一) 今井 源衛

(二) 今井 源衛

(三) 今井 源衛

(四) 今井 源衛

(五) 今井 源衛

(六) 今井 源衛

(七) 今井 源衛

(八) 今井 源衛

(九) 今井 源衛

(十) 今井 源衛

(十一) 今井 源衛

(十二) 今井 源衛

(十三) 今井 源衛

(十四) 今井 源衛

(十五) 今井 源衛

(十六) 今井 源衛

(十七) 今井 源衛

(十八) 今井 源衛

(十九) 今井 源衛

(二十) 今井 源衛

蔵書目その一	露伴翁著書	(一)	中野	三敏
蔵書目その二	国字解もの	(二)	中野	三敏
蔵書目その三	仏法勸化モノ	(三)	中野	三敏
蔵書目その四	近世木活	(四)	中野	三敏
蔵書目その五	邦人法帖その一	(五)	中野	三敏
蔵書目その六	邦人法帖その二	(六)	中野	三敏
蔵書目その七	邦人法帖その三	(七)	中野	三敏
	附和刻法帖・書論・書字			
蔵書目その八	詩字書	(八)	中野	三敏
蔵書目その九	邦人印譜その一	(九)	中野	三敏
蔵書目その十	邦人印譜その二	(十)	中野	三敏
蔵書目その十一	書画展観目録	(十一)	中野	三敏
蔵書目その十二	邦人詩文集 總集その一	(十二)	中野	三敏
川路柳虹参考文獻目録稿		(十三)	中原	豊
見てから読むか・・・		(十四)	花田	俊典
書評 近世新崎人伝漫言		(十五)	森	銚三

編集後記

- 「文献探究」第二十号をお届けします。
- お忙しい中、中野先生には貴重な御寄稿を賜りました。心よりお礼申し上げます。
- 「文献探究」発刊より、本号まで十年。記念号に相応しい量と実、編集の疲れもどこへやら、まずは、放神。
- 五年前、本誌十号に曰く、「わが『文献探究』も今号で満五年である。この五年間の足跡が実のあるものであったか否か、その結論は、恐らくこれからさきの五年間にあるのではないか、という気がする」と。そして、五年。結論は、何処へ。皆様の声をお聞かせ頂きたいと思えます。
- 次号は、来春三月刊行の予定です。

(高橋・二階堂記)